

第1回臨時会 資料1

児童・生徒に役立つ調べ学習の資料を収集します		図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策		
基本方針	1 資料の収集と保存を充実するために	
施策の方向性	（1）将来の図書館利用を見据えた資料を収集し保存します	
取組項目	① 幅広い分野の資料の体系的な収集	
取組内容ア	乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応できる資料・情報を収集するにあたり、乳幼児、児童・青少年、成人、高齢者等の各世代に向けた資料について、各図書館の地域事情や利用傾向・状況を踏まえながら収集し、様々な分野・ジャンルの資料を提供できるよう取り組みます。	
具体的な取組 （令和6年度）	調べ学習に役立つ資料を積極的に購入し、「図書館を使った調べる学習コンクール」等に活用してもらえよう学校への貸出や館内での展示を行う。	
事業評価に係る参考指標等		
<p>4月～ 調べ学習関連資料の収集、 百科事典を追加購入、 学校への百科事典貸出</p> <p>6～7月 学校出前事業 「まちなか先生」での 百科事典活用</p> <p>7～9月 自由研究向けの 展示と共に 調べ学習関連 資料を展示</p> <p>3月末 学校司書への アンケート実施 （調べ学習用の 活用資料等調査）</p>		
【目的・期待される成果】		
調べ学習関連資料の収集や、展示等による資料面の充実と共に、学校出前事業等のサービスを展開し、「図書館を使った調べる学習コンクール」等に役立てる。		
取組結果と評価	評価：A	
<p>1 百科事典（ポプラディア）を追加購入し、調べ学習に対応できるよう学校への団体貸出を通じて、百科事典（ポプラディア）等をセットにして貸し出した。</p> <p>複数のセットを用意することで、小学校4校で実施した「まちなか先生」において、児童一人ひとりが百科事典（ポプラディア）を使って自分で調べるという主体的な学びの実践となる方法で進めることができた。また、「図書館を使った調べる学習コンクー</p>		

ル」関連授業で百科事典（ポプラディア）を使い、学校司書が調べ学習のコツについて説明した中学校もあり、複数セットを備えたことで活用の幅が広がった。

2 調べ学習関連資料を幅広いジャンルで積極的に購入を進めた（109 タイトル）。

また、例年、夏休みに合わせて図書館全館で行っている自由研究関連資料の展示と併せて、令和6年度は調べ学習関連資料の展示も行った。

夏休み期間の児童・生徒からのレファレンス記録は149件、その内容は「梅干しについて」、「台風の仕組み」など様々で、収集・展示した資料も活用された。今後も様々なテーマの調べ学習に対応できるよう、幅広く調べ学習関連資料の収集に努める必要がある。

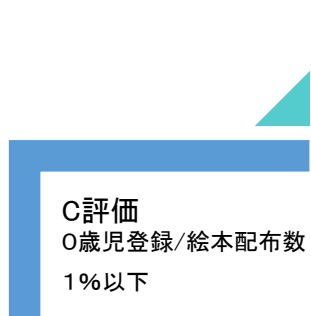
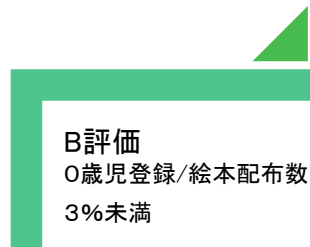
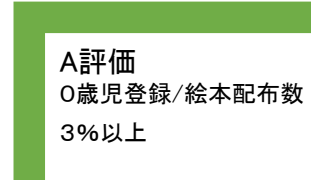
3 令和7年3月に学校司書を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール実施状況アンケート調査」を実施し、市内公立小・中学校司書18名のうち11名から回答を得た。

アンケートの回答では、コンクールのための百科事典（ポプラディア）の団体貸出や、図書館で実施した「自分で調べる力がつく！」連続講座、「調べる学習フェア」、「まちなか先生」の出張授業等を活用したという記載があり、図書館のサービスが広く利用されていると推察できる。

図書館協議会評価

評価：

--	--

絵本と子育て事業（ブックスタート）による絵本配布等や、ファミリー応援事業を通して、子どもと保護者の読書活動を支援します	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	4 未来を担う子どもを読書活動の支援するために
施策の方向性	（2）子どもの成長に沿った取組みを進めます
取組項目	① 乳幼児と保護者の読書活動の推進
取組内容イウ	<p>絵本と子育て事業（ブックスタート）を継続して実施し、様々な会場で子どもと保護者の読書活動を支援します。事業内容は、定期的に現状を検証して見直しを図ります。</p> <p>妊娠中の方・今後保護者になる方・家族向けの読み聞かせ講座として「ファミリー応援事業」（マタニティブックスタート）を実施します。</p>
具体的な取組 （令和6年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と子育て事業（ブックスタート）事業は、3から4か月児健康診査会場での実施を再開し、保護者に直接絵本を配布し、講師による読み聞かせの実演や図書館の案内を行う。 ・地域子育て支援センターを開設する保育園及び子育てひろば（地域子育て支援拠点）で、絵本の読み聞かせの実演、手遊び、図書館の案内を行う。 ・妊娠中の方、今後保護者になる方、これから赤ちゃんを迎える方への読み聞かせ講座として「ファミリー応援事業」（マタニティブックスタート）を実施。 ・未就学児、親子向け絵本と読み聞かせ関連講演会の実施。
事業評価に係る参考指標等	
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>C評価 0歳児登録/絵本配布数 1%以下</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>B評価 0歳児登録/絵本配布数 3%未満</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>A評価 0歳児登録/絵本配布数 3%以上</p> </div> </div> <p>【指標等の考え方】</p> <p>健康診査会場に来た0歳児とその保護者に、絵本とともに「登録・登録内容変更申込書」を配布し、その後、図書館で登録したかを調査することで、乳幼児と保護者への読書活動推進の効果を図る。</p>	

取組結果と評価	評価：B
<p>1 絵本と子育て事業（ブックスタート）</p> <p>3から4か月児健康診査会場での実施を再開し、直接、対象の親子に絵本を配布することで、読み聞かせの実践や読み聞かせや図書館について説明をすることができた。</p> <p>ご案内する際、「上の子の時もこの事業でもらった絵本を楽しんでいた」という話を聞くことも多く、この事業の継続性の意義を感じた。</p> <p>また、絵本と一緒に配布した「登録・登録内容変更申込書」を使って親が登録することもあり、図書館のPRとしては有効と考えられる。</p> <p>※受診者数 1,113名 うち絵本配布数 1,110冊、うち図書館利用登録者数 25件</p> <p>2 絵本の読み聞かせの実演、手遊び、図書館の案内</p> <p>おでかけおはなし会を、地域子育て支援センターを開設する保育園3園及び子育てひろば（地域子育て支援拠点）2箇所を実施。</p> <p>事業計画に基づき、保育園の実施会場を前年度より増やし、また、令和6年度より子育てひろば（地域子育て支援拠点）での実施も開始した。</p> <p>※計8回 参加人数 113名（乳児 59名、保護者 54名）</p> <p>3 「ファミリー応援事業」（マタニティブックスタート）</p> <p>講演会「今こそ家庭に言葉を～絵本を使ってできることをマタニティ期のうちに学びませんか？」（内田早苗氏）を10月26日に田無公民館で実施。対象は、妊娠中の方、その家族、このテーマに関心のある大人。</p> <p>マタニティ期の方を主な対象者としたが、当日オンライン参加に変更する参加者もあり、この時期の対象者の参集参加の難しさを感じた。配信は3日間限定だったが閲覧数は参加人数に比して、多くの方が閲覧した結果となった。アンケート結果では、子どもへの語りかけの影響力や、絵本の選び方、読み方についての具体的な話が参考になった等、講演内容について高評価の回答を得た。今後は対象となる方にとって参加しやすい時間設定や、参加できない方へのオンラインでの情報発信など事業の実施方法について検討していく必要がある。</p> <p>※参加人数 25名（会場、ZOOM参加の合計）</p> <p>動画閲覧数 111回（市のホームページで11月8日から10日までの配信）</p> <p>4 絵本と読み聞かせ関連講演会</p> <p>講演会「絵本でつながる絵本で広がる～制作秘話から子育て、ワークショップまで～」（スギヤマカナヨ氏）を令和7年2月15日に谷戸公民館で実施。</p> <p>絵本製作に込められた想いや展開しているワークショップについて、ご自身の子育ての話など幅広い講演内容は、アンケートからも楽しく、また興味深かったとの感想が多く寄せられた。帰り際にスタッフに感想やぜひワークショップも行ってほしいと声がけしていく参加者もあり、参加者の満足感が伝わった。</p> <p>※参加人数 39名（大人 30名、子ども 9名）</p>	

図書館協議会評価

評価：○

児童館等の施設及び放課後子供教室でのおはなし会等を実施し、子どもの図書館利用につなげていきます	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために
施策の方向性	（2）子どもの成長に沿った取組みを進めます
取組項目	② 小学生の読書活動の推進
取組内容イ	各小学校の放課後子供教室への司書の派遣や児童館等市内他施設でのおはなし会・ブックトーク等を実施し、様々な場所で子どもたちの図書館利用につながる活動に取り組みます。
具体的な取組 （令和6年度）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他施設でのおはなし会の実施継続 ・ 放課後子供教室の継続実施 ・ 上記おはなし会等への武蔵野大学学生ボランティアの活用
事業評価に係る参考指標等	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid #0070C0; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">C評価</p> <p style="text-align: center;">他施設でのおはなし会 実施回数7回以下 参加人数120人以下</p> </div> <div style="border: 2px solid #00A651; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">B評価</p> <p style="text-align: center;">他施設でのおはなし会 実施回数11回以下 参加人数190人以下</p> </div> <div style="border: 2px solid #008000; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">A評価</p> <p style="text-align: center;">他施設でのおはなし会 実施回数12回以上 参加人数191人以上</p> </div> </div> <p style="margin-top: 20px;">【指標等の考え方】</p> <p>他施設でのおはなし会の実施回数及び参加人数とする。</p>	
取組結果と評価	評価：B
<ol style="list-style-type: none"> 1 他施設でのおはなし会の実施 <p style="margin-left: 20px;">おでかけおはなし会を児童館4館で実施。実施回数は、前年度（6回・102人参加）よりも増となった。</p> <p style="margin-left: 20px;">※計8回 参加人数124名（児童111名、大人13名）</p> 2 放課後子供教室の実施 <p style="margin-left: 20px;">放課後子供教室（司書派遣）を4校で実施。社会教育課や各校の運営協議会と連携し、事業を実施することができたが、実施校は前年度（5校・98名参加）よりも減となった。</p> <p style="margin-left: 20px;">※参加人数66名（児童）</p> 	

3 学生ボランティアとの協働

児童館で実施したおでかけおはなし会のうち、5回に学生ボランティアが参加。

※参加人数のべ17名（別途、保育園で1回、1名参加）

ボランティアとして参加した学生は、幼児教育や絵本について研究をしている者が多く、実地での多世代交流の場となり、「子どもたちと一緒に参加する機会がないので有意義だった」「子どもたちの反応やコミュニケーションがとれて楽しかった」「自分の読み聞かせに対する子どもたちの楽しんでいる反応に感動した」などの声が寄せられた。

4 評価

放課後子供教室については回数減となったものの、おでかけおはなし会では回数増となり、参考指標等をもとにB評価とした。

図書館協議会評価

評価：○

YA向け調べ案内（パスファインダー）を作成します。図書館ホームページへの掲載や「西東京市子ども電子図書館」への資料登録によって、パスファインダーの活用を促します	図書館
西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために
施策の方向性	（2）子どもの成長に沿った取組みを進めます
取組項目	③ YA（ヤングアダルト）世代の読書活動の推進
取組内容ウ	YA世代に向けて、パスファインダー（調べ案内）を作成し、主体的に知りたい情報にアクセスできるようにサポートします。また、パスファインダーの利用の動向を踏まえながら、よく質問を受けるテーマや、話題のテーマについて、順次パスファインダーを拡大していきます。
具体的な取組 （令和6年度）	【パスファインダー作成およびHP・子ども電子図書館掲載スケジュール】 Vol.4（6月掲載）テーマ「SDGs（国際目標9～11）」 Vol.5（10月掲載）テーマ「SDGs（国際目標12～15）」 Vol.6（2月掲載）テーマ「SDGs（国際目標15～17）」
事業評価に係る参考指標等	
<div style="text-align: center;"> <p>6月 HP・子ども電子図書館 掲載 Vol.4「SDGs （国際目標9～11）」</p> <p>令和7年2月 HP・子ども電子図書館 掲載 Vol.6「SDGs （国際目標15～17）」</p> <p>10月 HP・子ども電子図書館 掲載 Vol.5「SDGs （国際目標12～14）」</p> </div>	
<p>【事業の目的、期待される効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ YA世代が主体的に知りたい情報にアクセスできるようにサポートし、図書館を身近な存在に感じてもらうこと。 ・ 来館による紙配布でない方法を取ることで、非来館のYA世代にも情報が行きわたること。 	

取組結果と評価	評価：A
<p>1 令和6年度は、昨年度に引き続き、SDGs をテーマにパスファインダーを作成した。SDGs は17 のゴール・169 のターゲットから構成され、取り扱う内容が多岐にわたるため、国際目標 1 からスタートし、6 月に Vol. 4 「SDGs (国際目標 9～11)」、10 月に Vol. 5 「SDGs (国際目標 12～14)」、令和7年2月に VOL. 6 「SDGs (国際目標 15～17)」を順に手掛け、年度内に予定どおりすべての国際目標に関するパスファインダーを作成した。</p> <p>2 作成したパスファインダーは、図書館ホームページに掲載し、非来館のYA世代への情報提供に努めた。令和6年度の閲覧回数は1,258回あり、閲覧者はYAに限定できないが、パスファインダーをWeb上に掲載していることは、閲覧数から見て一定の効果があると推定できる</p> <p>3 作成したパスファインダーは、「西東京市子ども電子図書館」にも独自資料登録をしており、図書館としては、市内の小・中学生を対象に電子図書館の利用促進を図るとともに、パスファインダーの作成・掲載を継続し、次年度以降は更に魅力的なテーマを考え、作成に取り組んでいきたい。</p>	
図書館協議会評価	評価：○

YA向け情報誌CATCHについて、読者投稿用ポストを市内中学に設置するなど、市内中学生との連携を進めるとともに、CATCHの認知度の向上に努めます	図書館
---	-----

西東京市図書館計画（令和6年度から令和10年度）における施策	
基本方針	4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために
施策の方向性	（2）子どもの成長に沿った取組みを進めます
取組項目	③ YA（ヤングアダルト）世代の読書活動の推進

取組内容	「CATCH」の認知度向上に向け、内容や広報の見直し等を行います。
------	-----------------------------------

具体的な取組 （令和6年度）	<p>「CATCH」について、YA世代の投稿を増やす取組を進める。令和6年度は、中学校図書館（1校）に「YA!YA!ペーパー（読者が自身の描いたイラストやお勧めの本の情報などを投稿する用紙）」専用のポストを設置する。</p> <p>また、投稿方法の選択肢を増やすため、図書館ホームページコンテンツ内に、「CATCH」投稿用ページを新設する。</p> <p>「CATCH」を周知するため、広報媒体を増やす取組を進める。最新号発行時や共同編集委員の募集等の広報に図書館ホームページのWEBサイネージを活用する。市内小・中学生の認知度向上のため、「CATCH」本誌を「西東京市子ども電子図書館」に独自資料として登録し閲覧可とする。「図書館だより」に「CATCH」のYA世代との共同編集について特集を組み、「CATCH」の特色をアピールする。</p>
-------------------	---

事業評価に係る参考指標等



【事業の目的、期待される効果】

- ・ 広報媒体を増やすことで、YA世代への認知度の向上が期待できる

取組結果と評価	評価：A
<p>1 令和6年6月、保谷中学校図書館に「CATCH」の「YA!YA!ペーパー（読者が自身の描いたイラストやお勧めの本の情報などを投稿する用紙）」専用のポストを設置した。学校司書と連携し、図書委員や美術部の生徒等にも声掛けをしていただいた結果、平成7年頃から図書館内に設置している専用ポストへの投稿は、ここ数年は年に1、2件程度の反応であったが、令和6年度内に、同校からの投稿が6件あった。この投稿は、以降の「CATCH」に掲載され、YA世代の声を紙面に反映することができた。</p> <p>2 令和6年10月、投稿方法の選択肢を増やすため、図書館ホームページコンテンツ内に、「CATCH」投稿用ページ（フォーム）を新設した。しかし、令和6年度中の投稿実績はなく、対象年齢層に伝わる工夫が必要である。</p> <p>3 「図書館だより」（令和6年12月15日号）に、特集「CATCHができるまで」を組み、現役のYA世代との共同編集の様子や、作成や執筆の裏側を紹介した。その後、令和7年度のCATCH共同編集者を募集したところ、前年度新規申し込み1名に対して4名の申し込みがあり、広報の効果が出たものと考えられる。</p>	
図書館協議会評価	評価：○